



このコーナーは新刊の心理学関連書籍を著者自らにご紹介いただくコーナーです。

装いの心理学

整え飾るところと行動

鈴木公啓

古今東西、古いも若きもおこなうものの一つに装いがあります。装わないヒトはいません。生まれてから死ぬまで、多くの時間を人は装って生きているのです。

装いには非常に多様な内容が含まれます。おそらく、装いという用語に対して多くの人がイメージした内容よりも幅広いものが含まれています。化粧や服装だけでなく、整髪や染髪、刺痕文身（所謂イレズミ）、美容外科手術による変化、ダイエティングやボディビルディングによる体型変化、さらには、姿勢や言葉によるものま

で、装いに含まれます。

身体の見た目を変化させるということは、自己をどのように認識し、そして、自己がどのように社会に認識されるかということと関連します。これは、自己をヒトの社会の中でどのように位置づけるのかということに繋がってきます。

本書では、装いの背景にどのような心理があるのか、多様な装い、そして関連する諸テーマについて、データに基づき丁寧に概説しました。装いの心理の広さと深さ、そして面白さを感じて頂けることを期待しています。



編著 鈴木公啓
発行 北大路書房
A5判 / 304頁
定価 本体2,700円＋税
発行年月 2020年3月

すずき ともひろ
東京未来大学子ども心理学部 准教授。
専門は社会・性格心理学。著書はほかに『パーソナリティ心理学入門：ストーリーとトピックで学ぶ心の個性』（共著、ナカニシヤ出版）、『痩せという身体の装い』『やさしく学べる心理統計法入門：こころのデータ理解への扉』（どちらも単著、ナカニシヤ出版）など。

発達科学から読み解く 親と子の心

身体・脳・環境から探る親子の関わり

田中友香理

赤ちゃんや子どもの心は、他者と身体を触れ合わせ、身体を共有する経験を通して動的に発達します。そのため、子どもの心の育ちを理解するためには、子ども側だけでなく、子どもと日々関わる他者、つまり、親の側の心の育ちについても理解することが重要です。本書は、「親子の心の育ちをセットでみる」という点を軸に据え、「脳」「身体」「環境」という三つのキーワードから心の発達に迫ります。「親としての心と脳の発達と親への支援」「子育て環境と心と脳の発達の関係」「親子の

身体接触が心と脳に与える影響」「日々進化する社会環境における心と脳の発達」などについて、エビデンス（科学的根拠）にもとづいた研究知見を紹介しています。

子育てや教育にかかわる方や研究者をはじめ多くの方に手に取っていただき、現代の親子の心の発達についての科学的な理解を深めていただくとともに、コロナ渦で「身体と身体が触れ合う」という機会が得にくくなっている中、今一度、心の発達における「身体」の重要性について考えていただききっかけになればと思います。



著 田中友香理
発行 ミネルヴァ書房
四六判 / 252頁
定価 本体2,400円＋税
発行年月日 2020年5月

たなか ゆかり
日本学術振興会特別研究員RPD（関西大学社会学部）。専門は発達心理学、発達科学。著書はほかに『新・教職教養シリーズ 発達と学習』（分担執筆、共同出版）。



革命のヴィゴツキー

もうひとつの「発達の最近接領域」理論

伊藤 崇

著 F. ニューマン・
L. ホルツマン
訳 伊藤崇・川俣智路
発行 新曜社
四六判 / 452頁
定価 本体3,600円＋税
発行年月 2020年8月

いとう たかし
北海道大学大学院教育学研究院 准教授。専門は言語発達論、発達心理学。単著に『越境する認知科学4 大人につきあう子どもたち：子育てへの文化歴史のアプローチ』（共立出版）、『学びのエクササイズ 子どもの発達とことば』（ひつじ書房）。

本書は、1980年代のニューヨークに草の根的な社会的活動のための拠点を設立した二人の在野の研究者が、その活動の背後にある思想を開陳したものである。

著者らは、ヴィゴツキーを「完成すること」(complete)を本書での課題とした。本書で言う完成とは、「そろって意味をなすこと」である。コレクションをそろえることなどを指すコンプリートだ。

即興劇では、誰かの「オファー」を別の誰かが受け止め、何らかの応答をすることでようやく舞台が完成し、そこに意味が作られる。

誰かからの応答がそろってはじめて、最初の発話はオファーとなる。

同様に、ヴィゴツキーの著作はそれ自体で閉じて完結していない。著者たちは、彼のいた時代や場所から遠く離れたニューヨークで、彼の言葉に応答した。そうであれば、この翻訳もまた、著者らへの応答なのだ。

本書を手にしたあなたも、なんらかの形でぜひ応答してほしい。いかなる応答であれ、そのことによって、ひとつの全体が完成し、そこに新しい意味が出来するのだから。



ワードマップ 質的研究法マッピング

特徴をつかみ、活用するために

神崎真実・春日秀朗

編 サトウタツヤ・
春日秀朗・神崎真実
発行 新曜社
A5判 / 292頁
定価 本体2,800円＋税
発行年月 2019年9月

かんざき まみ
立命館グローバル・イノベーション研究機構 専門研究員。専門は教育心理学、文化心理学。著書はほかに『通信制高校のすべて』（共著、彩流社）など。かすが ひであき
福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座 助教。専門は発達心理学、青年心理学。『文化心理学』（分担執筆、ちとせプレス）など。

本書は、代表的な質的研究法を、過程-構造、実存-理念の二軸で整理してマッピングしたものです。近年、質的研究が盛んに行われ、研究ジャーナルで質的研究の論文を目にする機会も増えました。質的研究への関心は高まっていますが、初学者にとって質的研究の学習は容易ではありません。質的研究法には統計分析のような明確な基準がなく、研究法同士の関係性も整理されていないため、共通点や差異が把握しづらい状況にありました。

そこで本書は26の質的研究法

を、①モデル構成、②記述のコード化、③理論構築、④記述の意味づけという——先述の二軸によって作られた——四つの枠組みで整理しました。そして、各研究法について最良の著者に解説していただきました。各解説がコンパクトにまとまっているので、多種多様な質的研究法を知りたい人におすすめです。本書の整理法はあくまでも仮説的なものですが、こうした整理を通して質的研究への関心が高まり、質的研究に関する議論が展開されることを願っております。